

Soccer News Shiga

2016.10.1

発行 (公社) 滋賀県サッカー協会
 責任者 専務理事 前田 康一
 〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地
 TEL:077-585-0982 / FAX:077-585-0983
 e-mail shiga@oregano.ocn.ne.jp
 URL http://www.shigafa.com
 印刷: スペース工房

2024年 滋賀国体 心に残る国体に!

びわこ成蹊スポーツ大学 望月 聡

スポーツからたくさんのことを学んだ。いや人生のすべてをサッカーというスポーツ経験から学び、身につけてきた。仲間と共に魂を揺さぶるような経験から、「強い精神と優しい心」をも育んだと思う。決して大げさに言っているわけではない。あなたは何かから、どんなことを学び、また身につけてきましたか。

「好きになる、夢中になる、夢や目標を持つ、向上心、探究心、努力、継続、自信、自立、主体性を持つ、自己決定力、成功と失敗そして両方から学ぶ、達成感や悔しさ、チームワーク、仲間やモノを大切に、リーダーシップとフォロワーシップ、世界基準で考える、人との出会い、思いやり、ユーモア…」

2024年滋賀国民体育大会が1981年以来、43年ぶりに再び開催される。幸運にも私は高校2年生の時、地元「びわこ国体」を選手の立場として経験することができた。成績は3位、先生や仲間と共に喜び合ったことを覚えている。

8年後の国体に向けて強い思いが3つある。一つ目は、限られた予算の中で、効果的にスポーツ施設等の環境を整えることである。決して後になって“負の遺産や後悔”を残したくない。リオ・オリンピックで実際に取り入れられていた仮設スタンド等、再利用性や既存施設の効果的活用法を視野に入れ、考慮しながら取り組むことを期待する。

二つ目は、“記憶・思い出・心に残る”国体にしたい。私自身の経験からの考えや意見であるが、競技にて記録や成績を残した「選手やチーム」はいつまでも憶えている。幸いにも日々の鍛錬や努力が発揮できた成果であり、アスリートとして称えられる素晴らしいことである。競技者のプレーは見る人をも魅了し、感動さえも与えてくれる。何年たっても忘れない栄光として記憶に残り続けるだろう。

しかしよく考えてみると、記録や成績を残すのはごく一部の人たちである。ほとんどの人やチームは、望まれた結果や成績を残せていないのではないだろうか。何が残っているのか… それぞれの心に刻まれる“思い出”でないかと思う。

私は高校生の時に、1980年栃の葉国体(栃木県)や、1982年くにびき国体(島根県)と他の国体にも参加させて頂いた。たくさんの方の期待と応援を受けながらも、残念ながら芳し

い成績や結果は残せなかった。悔しさと共に、申し訳なく思ったことを憶えている。だが今でも鮮明に憶えている良い思い出がある。それは試合の時に応援してくれた地元の人や子どもたち(旗を振りながら、一生懸命大きな声を出して)。宿泊先の従業員の方のおもてなし(温かい応対や話し方)。町で出会う人々の気遣いや親切丁寧な振る舞い(笑顔の中で)。競技内容や結果はあまり覚えていないのに、どうして憶えているのか、いや忘れないのだろうか… 頭の中での記憶ではなく、人にとって大事な感性(感じる身体や細胞と心)に沁み込んでいるのだろう。

三つ目は、全チーム参加出場の国体にしたい。現在サッカー競技においては、“地区予選を勝ち抜いたチームと開催都道府県チームが本大会に出場”となっている。開催地では故郷を離れて新しく住んでいる方など、選手やチーム、地元競技者に対して想いや縁のある方がおられる。そのチームや選手が出場していないこと、応援する人がいないことは寂しいものである。試合会場に足を運び、声を出して応援に行こうと思えないかもしれない。できることなら、全チーム参加の中で、多くの人が集まり、スポーツを通して、“しがの温かいおもてなし”を通して、記憶、心に残る、良い思い出を作って、感性に刻んでもらいたい。何年たっても忘れることのできないものにしたい。

そんな“記憶・思い出・心に残る”国体に一緒にしませんか。人生に必要な何かを持って帰ってもらいませんか。私たち地元のおもてなしとスポーツを通して



京都新聞提供

8年後の滋賀国体に向けての方針・取り組み

2巡目滋賀国体に向けて

技術委員長 梅田 英幸

第7回国民体育大会が、平成36年(2024年)に滋賀県で開催されることが決定しています。前回は第36回大会が、昭和56年(1981年)に開催されました。成年の部が甲賀郡甲西町(現湖南市)、少年の部が甲賀郡水口町(現甲賀市)で実施されました。

国体におけるサッカー競技は、第1回大会:昭和21年(1946年)から毎回行われています。ただし、種別については次のように変遷してきました。

第1回:昭和21年(1946年)~第7回:昭和27年(1952年)	一般、高校の部
第8回:昭和28年(1953年)~第11回:昭和31年(1956年)	教員、高校の部
第12回:昭和32年(1957年)~第24回:昭和44年(1969年)	一般、教員、高校の部
第25回:昭和45年(1970年)~第34回:昭和54年(1979年)	一般、教員、少年(選抜)の部
第35回:昭和55年(1980年)~第42回:昭和62年(1987年)	成年、少年の部
第43回:昭和63年(1988年)~第51回:平成8年(1996年)	成年1部、成年2部(国体未経験者)、少年の部
第52回:平成9年(1997年)~第60回:平成17年(2005年)	成年男子、成年女子、少年男子
第61回:平成18年(2006年)~第71回:平成28年(2016年)	成年男子、女子、少年男子(U-16)

滋賀県サッカー協会設立五十周年記念誌「滋賀の蹴球」(第14回大会から第53回大会まで)と、広報誌「SOCCER NEWS SHIGA」(第54回大会以降)から、国体における滋賀県代表チームの戦績をまとめました。(第13回大会以前は資料なし)

社会人種別では、第18回山口国体の教員の部で、滋賀教員団が4位という成績を残しています。それ以降は、第29回茨城国体、第30回三重国体、第36回滋賀国体(近畿予選なし)、第45回福岡国体、第52回大阪国体、第53回神奈川国体、第62回秋田国体、第64回新潟国体に出場と、一般の部に2回、成年の部(成年1部、成年男子を含む)に6回と合計8回の出場をしていますが、ここ7年は近畿予選で敗退しています。

少年種別では、第14回大会から第24回大会の高校の部に、第14回大会からは、甲賀高校が9回、瀬田工業高校、草津高校が1回ずつ出場しています。都道府県選抜の大会となった第25回大会から第60回大会までの36年間では、本国体に31回出場しています。また、第36回滋賀国体で3位、第42回沖繩国体で2位、第60回岡山国体で3位という輝かしい成績を残しています。第61回大会からは、U-16大会となり、近畿の出場枠も3府県となりました。近畿の代表は、Jリーグの下部組織がある3府県の出場がほとんどで、3府県すべてが本国体ベスト4に進出することもありました。U-16になってからの11年間は、第69回長崎国体に1回出場しただけとなっています。

第52回大会から実施されている女子種別では、20年間で、第58回静岡国体に1回出場しただけとなっています。ここ13年間は近畿予選で敗退しています。

滋賀県サッカー協会技術委員会では、8年後の2巡目滋賀国体に向けて、普及活動・選手育成・指導者養成などがより充実していくよう考えています。

普及活動については、4種委員会、キッズ委員会と協力し、キッズ活動の充実を図っています。特に8年後に少年男子のカテゴリーに該当、または女子の選手として活躍を期待する年代のサッカー教室や、キッズリーダーライセンスの取得者を増加させるための講習会を多く開催しています。

選手育成については、トレセン部が主導し、U-11~U-15年代の個の育成に努めています。

滋賀国体に向けて

キッズ委員長 杉本 聡

現在、8年後に滋賀県で開催される国民体育大会に向け、その年のターゲットエイジとなるキッズ(平成20年1月1日以降生から平成22年4月以前生)を対象に、サッカー教室をはじめ、滋賀県内の各ブロック(湖西・湖南・湖東・湖北・甲賀)において指導者を対象にU-8キッズリーダー講習会を実施しています。

キッズ教室は、平成28年度から国体普及・育成事業として年間8回(2回実施済)予定をしています。キッズ教室の内容は、鬼ごっこ、動きづくり、ボールフィーリング、ゲームを中心に、まずはサッカーが好きになること、「もっとしたい!」と思えるキッズの普及・育成を目的に実施しています。その中でも、楽しむことを大切にするとともに“質”の追求を意識しながら取り組んでいます。“Fun”&“Quality”を常に求め、キッズ達がサッカーを楽しみながら、スキルを習得できるよう取り組んでいます。

キッズリーダー講習会は、4種委員会とキッズ委員会が連携しながら、情報の共有を図り実施しています。各ブロックの4種の指導者がU-8年代のキッズの特徴と指導方法などを学び、キッズリーダーとなってたくさんのキッズと関わりを持つことを目的に行っています。

キッズ年代でさまざまな動作を行い、また神経系を刺激することによって、スムーズに身体を使い、スキルを習得することができます。個々の能力は異なりますが、それぞれが持っている個性を引き出し、発揮できるようにすることが我々指導者の役割だと考えています。キッズ年代からたくさん失敗・成功経験をし、さまざまな体験をしていくことが重要であり、そういった経験を積むことによって4種年代、3種年代で活かされると考えています。

このような経験をまずは8年後の国体で発揮されるように、各カテゴリーとの連携を図りながら、滋賀の指導者が一丸となってキッズの普及・育成に努めたいと考えています。

また、国体だけを目標にするのではなく、これからの滋賀県のサッカー界の発展に貢献できるように日々キッズの事業に取り組んでまいりたいと思います。



4 種委員会の取り組み

4 種委員会 技術委員長 世古宗 泉

【はじめに】

2024 年 2 巡目の「滋賀国体」開催が決定し「少年男子」の U16 化に伴い、その「ターゲットエイジ」が現在の小学生低学年となる。

「普及」「育成」「強化」の三位一体で 4 種委員会の活動と将来を見据えた方針を構築していく段階にある。

【普及活動】

4 種委員会では今年度から「キッズチャレンジプログラム」を地域と連携し、幼児から小学 3 年生を対象とした「サッカーに親しむ」「サッカーの楽しさを伝える」をコンセプトに経験、未経験を問わず、参加する子供へボール遊びからミニゲーム等を通して普及活動を実施している。少子化や競技人口の減少が懸念される昨今、幼児期からサッカーに興味を持てる取り組みを全県で継続して実施し、競技人口を増やし将来的に優秀な選手が育つ礎を構築することを目指す。

また、キッズ指導者の育成も強化し、キッズ委員会と連携して全登録チームの指導者を対象に「U6、U8 キッズ指導者研修会」を実施している。「キッズチャレンジプログラム」をより充実させ、かつ細部にまでこだわった活動にしている。

この世代へのアプローチが以降の競技人口を左右するテーマであることから「普及活動」は 4 種委員会の重要なポイントと位置づける。

【育成活動】

昨年度より「全日本少年サッカー大会」が冬季開催となり、4 月から 10 月の期間で「U12 リーグ」を開催している。

「生活圏内で活動するチームでの年間を通したリーグ戦」を軸に 5 地域で相互 2 回戦制での開催は、選手個人の成長、チームの総合力の成長度を確認する良い機会となる。

リーグ戦はすべて「1 人審判制」を採用し、チームメイトに限らず対戦チームの選手への思いやりある言動には「グリーンカード」の掲示を行い「フェアプレー」の姿勢を身につけることも目的とする。技術力向上と共にリスペクトの精神も同時に習得出来る環境づくりを目指す。

また U11、U10 リーグも並行して実施し、選手のゲームの出場機会を増やす。トライ＆エラーを繰り返しながらトレーニングの成果は、ゲームを通して選手、指導者が実感出来るリーグ戦環境の整備をさらに充実させる。

【強化活動】

トレセンシステムは県トレセンと地域トレセンが選手の強化を目的に定期的活動を実施している。

県トレセンは関西 2 府 4 県でのリーグ戦を戦い、ナショナルトレセンに派遣する選手を発掘する。また、FFP (フットボールフューチャープログラム) 全国トレセン研修会への参加、海外遠征等を経験し、よりグローバルな視野を持つ選手を育成、強化していく。

地域トレセンでは JFA 指針に基づいた「モデル地区トレセン」活動を通して、カテゴリーを超えた指導者を招き、複数回の選手への指導、遠征、大会参加を実施している。

トレセン活動は県、地域とも活動内容が日々進化をしている。「ゴールデンエイジ」の世代が、より高いレベルを体感し視野を広げ、経験値を蓄積していく機会を充実させていく。

指導者研修、カンファレンス、ライセンス取得、リフレッシュ研修を通じて選手のレベル向上と指導者のレベル向上をさらに目指す。

【まとめ】

4 種委員会に関わる世代は幼少から小学生高学年まで幅広く、その世代に合った適正な指導や環境が必要となる。2 種、3 種、キッズと技術、審判の各委員会との連携、協力も必須で、8 年後の国体に向けて【普及】【育成】【強化】のもと「一貫指導」を進めていく。

指導者はカテゴリーを超えて選手の成長を分析し、その都度修正を加えながら選手の競技力を向上させていく。



全国大会出場チームからの結果報告

第 40 回総理大臣杯全日本大学サッカー トーナメントを振り返って

びわこ成蹊スポーツ大学 北村 裕貴

第 40 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントが 8 月 6 日に関西地方各会場で開幕し、全国 9 地域の予選を勝ち抜いた 32 チームが参加し熱戦が繰り広げられた。8 月 14 日にヤンマースタジアム長居で行われた決勝戦では明治大学 (関東第 3 代表) が順天堂大学 (関東第 6 代表) を 1-0 で下し、見事初優勝を飾った。

びわこ成蹊スポーツ大学は、5 月に開催された関西地区予選である関西学生サッカー選手権でベスト 4 に入り、関西第 4 代表として 4 年ぶり 2 度目の出場を果たした。勝てば出場が決まる準々決勝では、前年度大学の主要な大会において全タイトルを獲得した関西学院大学に対し、延長戦 2-1 で勝利をおさめた。

8 月 6 日の 1 回戦は四国第 2 代表の松山大学であった。当日試合会場付近で発生した雷雲の影響を受け、キックオフ時間が当初の予定より 1 時間半遅れるアクシデントに見舞われたが、選手は臨機応変に対応した。試合は序盤からボールを支配し押し込む時間が続いたが、ゴール前のパス・ドリブル・フィニッシュの精度を欠き、時折鋭いカウンターを受ける展開で進んだ。前半終了間際に獲得した PK を決め先制に成功したが、後半立ち上がりリセットプレーから失点した。苦しい展開ながらも途中出場の清川流石 (愛媛 FC ユース / 2 年) と上村大悟 (立正大 湘南 / 1 年) がゴールを決め、初戦を 3-1 で勝利した。

8 月 8 日、中一日で迎えた 2 回戦は関東第 4 代表の国士舘大学であった。1 回戦とは逆に、相手に主導権を握られる苦しい展開となったが、自分たちの持ち味である粘り強い 3 ラインでの守備で徐々にペースをつかんでいった。後半フリーのドロップボールから始まったボールを奪うと、途中出場の清川流石 (愛媛 FC ユース / 2 年) が 2 試合連続となるゴールを決め、1-0 で厳しい試合をものにし、ベスト 8 に駒を進めた。

8 月 10 日、勝てば創部以来 2 度目の全国大会ベスト 4 進出となる準々決勝の対戦相手は、関東第 6 代表の順天堂大学であった。国士舘大学戦同様押し込まれる時間が続き、苦しい試合展開となった。連戦の疲労、また相手の技術の高さから守備で前に出ることが難しく、後半ディフェンスラインが下がったところを、相手のエース選手にミドルシュートを決められ先制される。その後決定的なチャンスを作るも決めきれず、0-1 での敗戦となった。

大会を通して、日頃関西学生リーグでも大切にしている自分たちの良さ「良い守備から、良い攻撃へ」は随所に出せ、また通用した部分であった。しかし、敗戦はスコア以上の差を感じるものでもあった。ここ数年の本学の戦績を見れば、着実に力をつけてきていることは確かであるが、全国大会上位の常連チーム、また一昨年のベスト 4 以上の成績を残すためには、自分たちの良さに更に磨きをかけるとともに、全体的なスケールアップをはからなければならない。



創部 13 年目をむかえた本学は、今年サッカーフィールドの人工芝をリニューアルした。今後も施設・環境の整備も進め、更なる強化をはかっていく。選手が主体性を持ち、「学習し進化する組織」を目指す本学が、将来大学サッカー界を牽引していくと信じて取り組んでいく。

今回の総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場にあたり、滋賀県サッカー協会様をはじめ、関係各位の皆さまに様々なご支援ご声援賜りましたことをこの場をお借りし御礼申し上げます。ありがとうございました。

前半戦は押され気味ではありましたが両チームとも有効打がなく、一進一退の攻防が続きました。ハーフタイムで選手間の意思を統一し、後半戦は主導権を握り押し気味に試合を進めることができ決定的な場面を迎えましたが得点できず、逆に試合終了間際に得点され、それが決勝点となりました。全国大会でまずは 1 勝という目標は費えました。負けはしましたが、全国大会の場に立ち上ることなく自分たちのサッカースタイルを貫き通せたことは収穫の一つです。課題としては、自分たちのスタイルで戦えない時間帯にどう対応していくのか、シュートの決定率を向上、ボールの無い所での動きの質など、それぞれのポジションでの課題が与えられました。そして、選手自身考え、技術の向上を考えるよい機会となりました。

3 年前の全国高校選手権大会に出場以来ボトムアップ指導の体制を維持し、選手が主体性を持ちながら、より深く細部に拘って考えるサッカーに徹することで、全ての面においてレベルアップできてきました。その結果、チーム内でのポジション争いも激化し、チーム全体がボトムアップされた実感しています。これから選手権予選に向けて、全国大会で観て感じた経験を日々の練習に生かし、これまで以上のチームになるよう指導していきたいと思っています。再び選手権で滋賀県代表として出場ができるならば、初戦で敗退することなく一戦一戦慎重に且つ大胆なプレーができるよう、全国大会だからこそ底力を発揮できるチーム作りをしていきたいと思っています。

選手にとっても指導者にとっても貴重な経験をさせてもらいました。今後はピッチ上だけでなく日常生活から見直し、一廻り成長した選手を育成し、次の選手権に向けて努力していきたいと思っています。

今回、保護者の方々をはじめ、関係者の皆様にはたくさんの激励とご尽力をおかけいただきましたこと、最後になりましたがお礼申し上げます。



第 3 回全日本ユース(U-18)フットサル大会を 終えて

滋賀県立野洲高等学校サッカー部 顧問 上田 大輔



第 3 回全日本ユース (U-18) フットサル大会に関西第一代表として出場いたしました。今大会は第 1 回大会に続いて 2 回目の出場になります。1 次ラウンドではグループ A に入り、8 月 4 日 (木) に行われた初戦で前回大会優勝校である岡山県立作陽高校に 4-2 で勝利し、2 試合目では宮城県の聖和学園高校サッカー部 SC に 3-1 で勝利しました。翌日 8 月 5 日 (金) に行われた 3 試合目では宮崎県の日南学園高校に 0-4 で敗れましたが、グループ A を 1 次ラウンド一位で通過しました。翌日 8 月 6 日 (土) の決勝ラウンド一回戦では香川県の高松商業高校に 1-3 で敗れ、全国大会ベスト 8 という成績で終えることになりました。サッカーの練習をしながら、限られた時間の中でフットサルの練習をし、よくこれまでの結果を出してくれたことと嬉しく思います。

今大会で感じたことは、フットサルのクラブチームやサッカー部の中にフットサル専門のチームのある学校では、やはり戦術理解の面で差があったということです。攻撃のパターンや組織的な守備、交代のタイミングなど、サッカーとは違うフットサル独自の戦術が必要であることや、選手層の厚さなどにも課題が残りました。しかし、パスやドリブルなどの技術的なことでは通用した部分もたくさんあり、今後も伸ばしていきたいと思っています。来年度は今大会以上の成績を残せるよう、早期からサッカー部でフットサルチームを立ち上げ、強化していきたいと考えております。

最後になりましたが、多くの皆様よりご支援、ご声援をいただきありがとうございました。

平成 28 年度全国高等学校総合体育大会を終えて

綾羽高等学校サッカー部 監督 岸本 幸二

平成 28 年度全国高等学校総合体育大会サッカーに滋賀県代表として初出場し、7 月 27 日 (火) の 1 回戦では星稜高等学校との対戦で 0-1 という成績で終えることとなりました。毎年、石川県の大会に参加させてもらっており、星稜高等学校とは何度も対戦する機会がありました。しかし、相手校は強豪チームであり胸を借りるつもりで試合に臨みました。